睡眠歯科センターと大学院全身関連臨床検査学(内科学)講座との共同研究

睡眠中の無呼吸は誤嚥を助長する

第 46 回日本睡眠学会定期学術集会に報告

2021 年 5 月

今年度の日本睡眠学会の定期学術集会は来る 9 月 23/24 日に福岡市にて開催され、本学からは大学院全身関連臨床検査学講座（大越章吾教授）と睡眠歯科センター（河野正己教授）との共同研究の成果を大学院所属の河野 茜博士（医学）が報告します。

誤嚥性肺炎は日本人の死因の第七位で、70 歳以上の肺炎の 70%を占めるといわれております。この肺炎はその名の通り嚥下が失敗、すなわち誤嚥することによって口から食道に向かうはずの唾液が気管や肺に入って引き起こされる肺炎で、誤嚥が睡眠中に生じていることが以前から懸念されていましたが、睡眠中の嚥下運動を観察することが難しいため証明されることがありませんでした。
私たちは日常的に睡眠の診断に使う睡眠ポリグラフ（PSG）によって正確に嚥下を観察するため嚥下運動の検出方法を開発し、それが確実であることを胃食道インピーダンス測定法にて証明してきました。
今回はその手法を用いて、閉塞性睡眠時無呼吸の正常者、軽症者、中等度者、重症者をそれぞれ 20 名ずつ、都合 80 名を調査し、睡眠中の無呼吸が嚥下を障害して誤嚥の原因になることが証明されました。

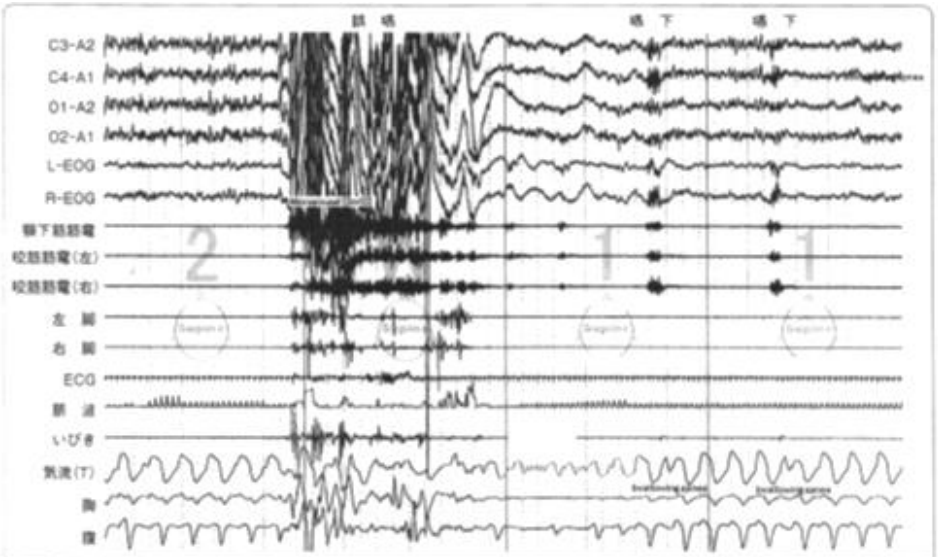

図3 誤嚥と嚥下のPSG所見

誤嚥は数十秒間続く大きなエピソードであり、睡眠よりの覚醒、そして遅延する中枢性無呼吸が特徴である。続く嚥下では、舌や喉頭を挙上するため開口筋に加え、開口筋が同時に活動しており、気流の変化で観察されるswallowing apneaで嚥下が完遂したことを知ることができる。